

輝かしい未来へ

ぐんま国際アカデミー 8年

三浦 イリヤナ はるか

皆さんは、優先席に座ったことはありませんか。誰でも一度は座ったことがあると思います。優先席に座った人は悪いなんてことはありません。でも、一回自分の周りを見てください。誰か困っている人がいるかもしれません。私が何故このことについて話しているかというと今、現在、優先席のあつかい方がとても見ていられないからです。次にお話するのは実際、私が見た今、現在の優先席のあつかい方です。

夕方、皆さんがちょうど家に帰る時間ですね。そんな時、皆さんは優先席に目を向けたことはありませんか。私が見た時には、こんなことが起こっていました。

二十代後半くらいの方だったと思います。その方が、優先席で大音量で音楽を聴きながら携帯を手にしていました。一般席でも、反することなのにそれを優先席でしていることに私は、驚きを隠せませんでした。ですが、もっと驚いたのは周りが注意しないことです。

隣の方は、まるで誰もいないかのように過しています。私は怖いという感情が急にこみ上げてきました。何故怖いかというと、このようなことを注意しないということは優先席で大音量で音楽を聴きながら携帯を手をしていることが当たり前という意味を示しているからです。次の駅に電車が到着しました。私は、この次の駅で降りることを希望にしながら、手摺りを強く握るのでした。

その時、お年寄りの方が大きな荷物を手に持ちながら優先席を前に手摺りを強く握っていました。そして、優先席に座っている方々はというと全員一人も欠けずにそろいもそろって見て見ぬふり。まるで優先席と一般席の違いを知っていないかのように座っています。私は、いつの間にか優先席へ向かっていました。

「この方に席をゆずって下さい。」

私は、お年寄りを隣にしながら頼んでみました。優先席に座っている方々は、迷惑そうにこちらから目を反らします。でも、ただ一人目を反らさない方がいました。私は、その方の答えを最後の希望にしました。

「大人に向かって何を言っているんだ、黙りなさい。」と怒鳴られてしまいました。目的の駅に到着しました。

私は、お年寄りに

「何も出来なくてすみません。」  
と言うことしか出来ませんでした。お年寄りの方とは  
いうと

「いいのよ、いいのよ。」

と笑顔でそして辛さと悲しみの交じった声で私に返して  
くれました。電車を降りる時、普段より私の足が早  
く動いていることに気づきました。降りた瞬間、怒り、  
悔しさ、そして悲しみの交じった感情ができました。  
正に絶望的でした。私が見た現場で行われていること  
はどこでも当たり前に行われていることです。苛立ち  
ませんか。悔しくありませんか。悲しくくないですか。  
そして、これ以上のことが当たり前になったら怖くな  
いですか。

今からでも直していけるかもしれません。自分の考  
えを発言して下さい。違うと思うこと、間違っている  
と思うことを引き出しにしまわないで外に出して下さい。  
まず、自分の考えを言い、相手の考えを受け止  
めてみてください。そうして出た答えは、相手の考え  
も自分の考えも変えてくれます。

そして人の考えを潰さないで下さい。思いやりを持っ  
て下さい。人を大切にして下さい。

これらは、本来当たり前前のことですが、現在は別の

当たり前がまかり通っています。だから、自分の意見  
を言うことができる、思いやりをもつことが当たり前  
になっている明るい未来に変えて行きましょう。そし  
て未来で子供たちが私の主張を読んだときに、今現在  
行われていることは有り得ないことだと言わせましょ  
う。  
今より輝かしい未来を夢見て。

